

平成30年9月2日
都市整備部建築課

平成30年度 目黒区応急危険度判定訓練

次 第

8:40-8:55	判定員受付
9:00-9:05	課長挨拶
9:05-9:15(10)	コーディネーター紹介
9:15-9:35(20)	本日の訓練内容説明
9:35-10:20(45)	演習：東山マンション（東山中学校西側校舎） *未了の場合でも、10時20分までに必ず被服室に戻ってください。
10:20-10:40(20)	①各チームから班長へ判定結果報告及びまとめ ↓ ②班長からコーディネーターへの結果報告 ↓ ③コーディネーターによる記載事項の確認
10:40-11:00(20)	演習結果説明、総括、解散

応急危険度判定にあたっての説明資料

1 被害想定

- (1) 平成30年9月2日(日)午前8時30分に、東京湾北部を震源とする直下地震(マグニチュード7.3)が発生し、目黒区では震度6強を観測した。区内全域で、電気・水道・ガス等ライフラインの途絶、家屋の倒壊といった深刻な被害が発生しており、区では、目黒区災害対策本部を立ち上げ、被害状況の情報収集に努めるとともに、参集指定職員が各地域避難所に参集し、避難所開設の準備を進めている。同時に、被災建築物応急危険度判定の実施を決定した。

2 判定対象

- (1) 今回は、地図表示「東山マンション」を判定していただきます。
- (2) 判定対象は住宅とし、併用住宅・共同住宅を含みます。敷地内の車庫などの附属建物は対象としません。ただし、必要に応じ隣接建築物としての影響を考慮してください。
- (3) 公営住宅や企業の社宅等は対象といたしません。
- (4) 高層集合住宅は、10階未満建又は高さ30m以下を対象とします。

3 判定における注意事項

- (1) 判定作業は、危険な場所に近づかない等、無理な活動はしないでください。
- (2) 判定は、調査票に基づき、客観的に実施してください。
- (3) 外観調査をお願いします。なお、住民から内部調査を依頼されたときは、「被害が大きく、1件の調査に時間を割けない」旨を説明して極力お断りしてください。
- (4) RC造かSRC造か判断できない場合は、8階建以上はSRC造としてください。
- (5) RC造の損傷度については、判定手帳を参照の上、判断しますが、調査する階の柱又は壁の直下に損傷度IV以上のものがある場合は、その柱又は壁の損傷度も同じ損傷度(IVかV)とします。
- (6) 住民から質問があった場合は、応急危険度判定手帳を参考にするなど、誠実に対応し、依頼については記録してください。
- (7) 現地で判定以外の業務を求められた場合、丁寧にお断りし、速やかにその場を離れてください。

4 調査報告

- (1) 判定終了後の集合時間は、午前10時20分、報告場所は、東山中学校2階被服室(応急度判定訓練実施本部)です。
- (2) 班長は、各班の判定結果を整理し、コーディネーターに報告してください。
- (3) 判定が終了しない場合にも、無理せず、集合時間までにお戻り下さい。
- (4) 集合時間に戻れない場合は、実施本部に連絡して下さい。(今回は訓練ですので連絡は不要です。)

5 被災地の状況等

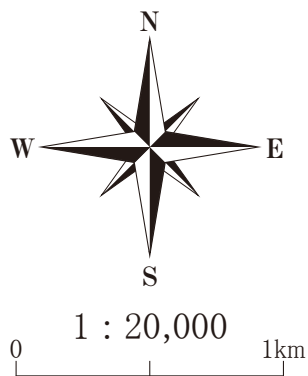
- (1) 被災地の状況(危険区域、火災発生地域、救助活動区域等)
- (2) 気象情報(気温、風速、降雨等)
- (3) 余震情報(震源地、震度等)
- (4) 判定実施区域周辺の情報(避難所の位置、被災住民への情報等)

目黒区応急危険度判定実施本部(下記連絡先は目黒区建築課)

電話 03-5722-9647

[メール kentiku04@city.meguro.tokyo.jp](mailto:kentiku04@city.meguro.tokyo.jp)

目黒区地域危険度マップ



【地域危険度とは】

以下の危険性を町丁目ごとに測定し、5つのランクに分けて評価しています。

- 建物倒壊危険度（建物倒壊の危険性）
- 火災危険度（火災の発生による延焼の危険性）
- 総合危険度（上記2指標に災害時活動困難度*を加味して総合化したもの）

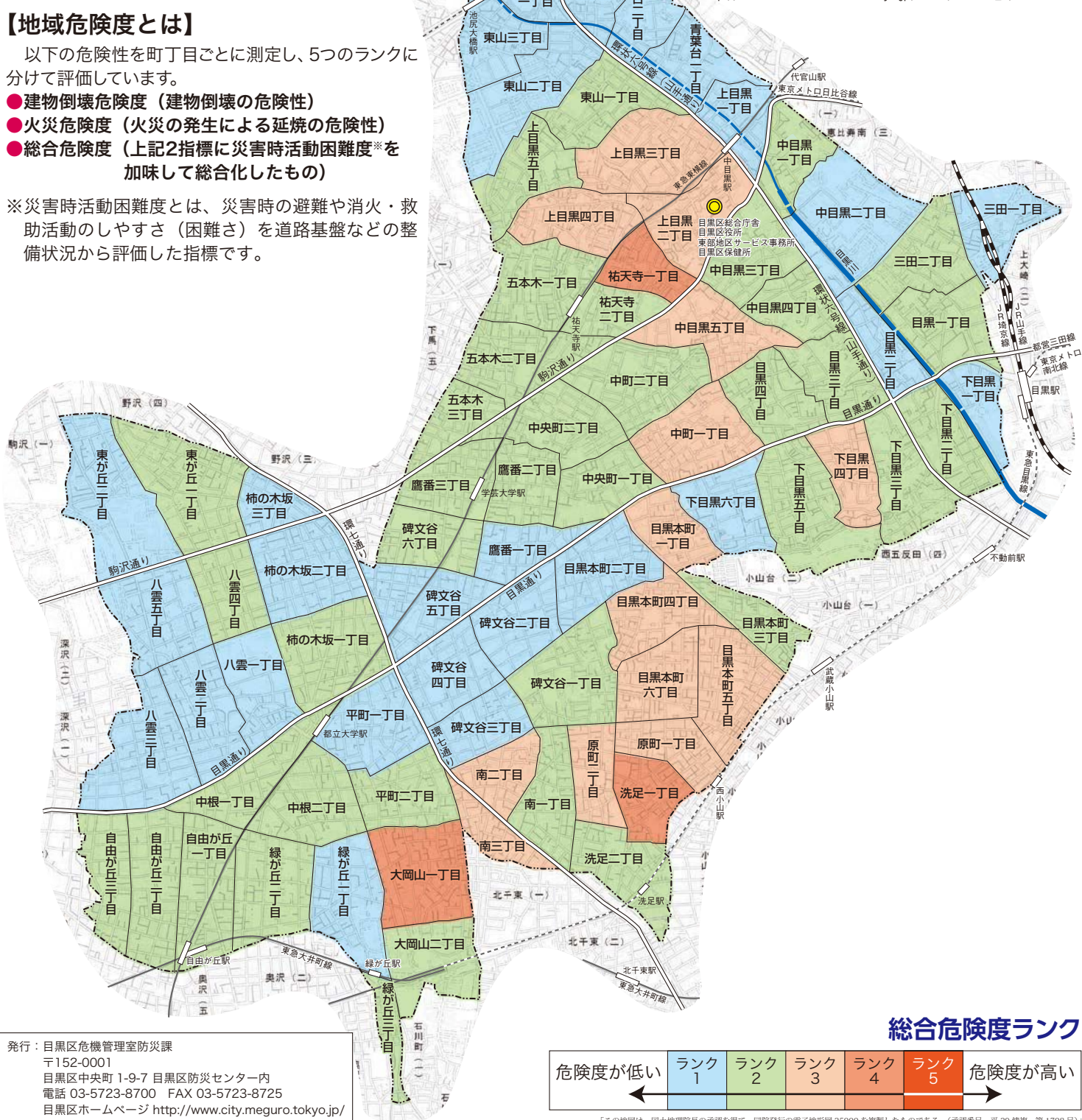
*災害時活動困難度とは、災害時の避難や消火・救助活動のしやすさ（困難さ）を道路基盤などの整備状況から評価した指標です。

この地図は、平成 30 年 2 月に東京都が公表した「地震に関する地域危険度測定調査（第 8 回）」の結果に基づき作成した東京都総合危険度ランクマップを活用し、地震災害に対する区民の皆さんの認識を深め、防災意識の高揚に役立つよう作成したものです。

大地震が起きると、揺れによる建物の倒壊や火災の発生による延焼で大きな被害を引き起こす可能性があります。

地震による被害を最小限に抑えるため、お住まいの地域の危険性をふまえ、日ごろから備えておきましょう。

◎「地域危険度測定調査（第 8 回）」の詳細は、東京都都市整備局ホームページをご覧ください。
http://www.toshiseibi.metro.tokyo.jp/bosai/chousa_6/home.htm



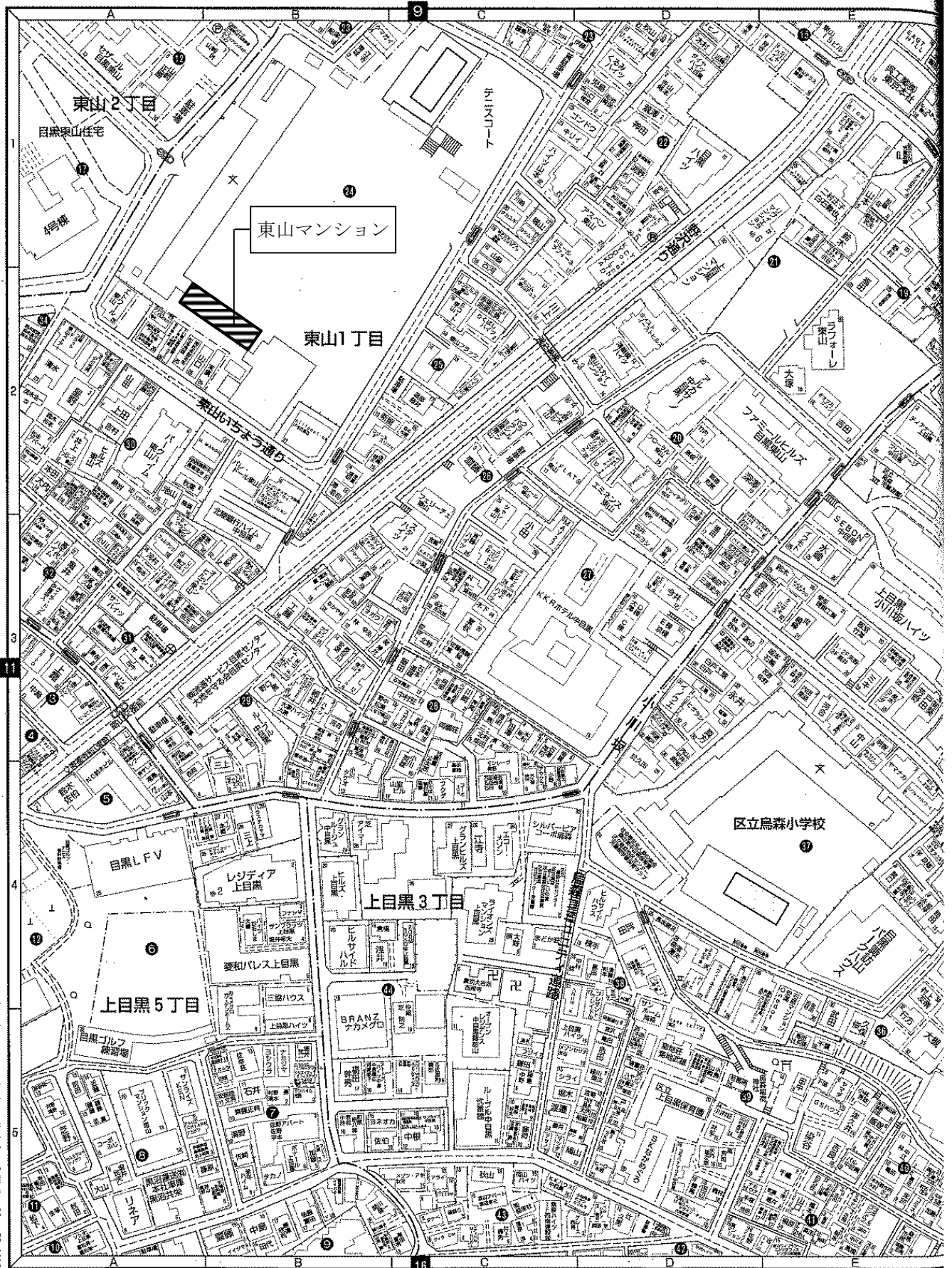
発行：目黒区危機管理室防災課
 〒152-0001
 目黒区中央町 1-9-7 目黒区防災センター内
 電話 03-5723-8700 FAX 03-5723-8725
 目黒区ホームページ <http://www.city.meguro.tokyo.jp/>

対象建物住宅地図

・平成30年度判定対象「東山マンション」

住居表示：東山一丁目24-31

12 目黒区



© 2018 ZENRIN CO., LTD. 2817

平成30年度 被災建築物応急危険度判定 実地訓練

1 建物概要

マンション名：東山マンション

住 所：東山一丁目24-31

構 造：RC造4階建て、地下無し

2 実地訓練手順

- (1) 構造的にはRC造です。
- (2) 各チームごとに柱の損傷度を判定していただき、判定調査表をまとめてください。
その後、判定ステッカーを所定の場所へ貼ってください。
- (3) 最後に班名と同じ場所の下げ振りによる傾斜測定を行ない、判定調査表裏面へ結果を記録してください。終了後、被服室へ戻ってください。
(柱の損傷度の判定の前に、下げ振り訓練を行っても構いません。)
- (4) 各チームごとに結果を住宅地図へ色付けし、チーム集計表を作成してください。
出来次第、班長へ提出してください。
- (5) 班長はチーム集計表の結果を班長集計表へまとめてください。作成できましたら資料一式を担当コーディネーターへ渡して報告してください。

3 注意点

- (1) 判定対象建物周辺以外へは移動しないでください。
- (2) 外観からの判定としてください。(内部の柱は判定対象外)
- (3) 柱に貼ってある写真をもとに判定してください。写真のない柱は無被害です。
- (4) 落下物による危険はないものとします。
- (5) 判定調査表裏面にも記載していますが、下げ振りの傾斜角度は判定には使用しません。判定調査表裏面に測定した数値を記入してください。

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造建築物等の応急危険度判定調査表

RC

整理番号 _____ 調査日時 _____ 月 _____ 日 午前・午後 _____ 時 調査回数 _____ 回目

調査者氏名 (都道府県/No) _____ (_____ / _____)
_____ (_____ / _____)

整理番号

建築物番号

住宅地図整理番号

3
4
地上 階
地下 階
ア m
イ m

建築物概要

- 1 建築物名称 _____ 1.1 建築物番号 _____
 2 建築物所在地 _____ 2.1 住宅地図整理番号 _____
 3 建築物用途 1.戸建て専用住宅 2.長屋住宅 3.共同住宅 4.併用住宅 5.店舗 6.事務所
 7.旅館・ホテル 8.庁舎等公共施設 9.病院・診療所 10.保育所 11.工場
 12.倉庫 13.学校 14.体育館 15.劇場、遊戯場等 16.その他 (_____)
 4 構造種別 1.鉄筋コンクリート造 2.プレキャストコンクリート造 3.ブロック造
 4.鉄骨鉄筋コンクリート造 5.混構造 (_____) と (_____)
 5 階 数 地上 階 地下 階
 6 建築物規模 1階寸法 約ア _____ m×イ _____ m

調査 調査方法：(1. 外観調査のみ実施 2. 内観調査も併せて実施)

- 1 一見して危険と判定される。(該当する場合は○を付け危険と判定し調査を終了し総合判定へ)

1. 建築物全体又は一部の崩壊・落階	2. 基礎の著しい破壊、上部構造との著しいずれ
3. 建築物全体又は一部の著しい傾斜	4. その他 (_____)

調査方法

1

2 隣接建築物・周辺地盤等及び構造躯体に関する危険度

	Aランク	Bランク	Cランク
判定(1) ① 損傷度Ⅲ以上の損傷部材の有無	1. 無し	2. あり	

判定(1)

①

判定(2)	② 隣接建築物・周辺地盤の破壊による危険	1. 危険無し	2. 不明確	3. 危険あり
	③ 地盤破壊による建築物全体の沈下	1. 0.2m以下	2. 0.2m～1.0m	3. 1.0m超
	④ 不同沈下による建築物全体の傾斜	1. 1/60以下	2. 1/60～1/30	3. 1/30超
	柱の被害 [下記⑤⑥の調査階(被害最大の階) _____ 階] (壁構造の場合は柱を壁の長さを読みかえる)			
判定(2)	⑤ 損傷度Ⅴの柱本数/調査柱本数 損傷度Ⅴの柱総数 _____ 本 調査柱 _____ 本 (調査率 _____ %)	1. 1%以下	2. 1%～10%	3. 10%超
	⑥ 損傷度Ⅳの柱本数/調査柱本数 損傷度Ⅳの柱総数 _____ 本 調査柱 _____ 本 (調査率 _____ %)	1. 10%以下	2. 10%～20%	3. 20%超
	判定(2)	1. 調査済み 全部Aランクの場合	2. 要注意 Bランクが1の場合	3. 危険 Cランクが1以上又はBランクが2以上

柱の被害最大の階

⑤

⑥

判定(2)

判定

3 落下危険物・転倒危険物に関する危険度

	Aランク	Bランク	Cランク
① 窓枠・窓ガラス	1.ほとんど無被害	2.歪み、ひび割れ	3.落下の危険有り
② 外装材(モルタル・タイル・石貼り等)	1.ほとんど無被害	2.部分的なひび割れ、隙間	3.顕著なひび割れ、剥離
③ 外装材(ALC板・PC板・金属・ブロック等)	1.目地の亀裂程度	2.板に隙間が見られる	3.顕著な目地ずれ、板破壊
④ 看板・機器類	1.傾斜無し	2.わずかな傾斜	3.落下の危険有り
⑤ 屋外看板	1.傾斜無し	2.わずかな傾斜	3.明瞭な傾斜
⑥ その他 (_____)	1.安全	2.要注意	3.危険
危険度の判定	1.調査済み 全部Aランクの場合	2.要注意 Bランクが1以上ある場合	3.危険 Cランクが1以上ある場合

①

②

③

④

⑤

⑥

判定

総合判定

総合判定 (調査の1で危険と判定された場合は危険、それ以外は調査の2と3の大きい方の危険度で判定する。)

1. 調査済(緑) 2. 要注意(黄) 3. 危険(赤)

コメント(構造躯体等が危険か、落下物等が危険かなどを記入する。)

コメントは判定ステッカーの注記と同じとする。

下げ振り演習

1 下げ振り演習について

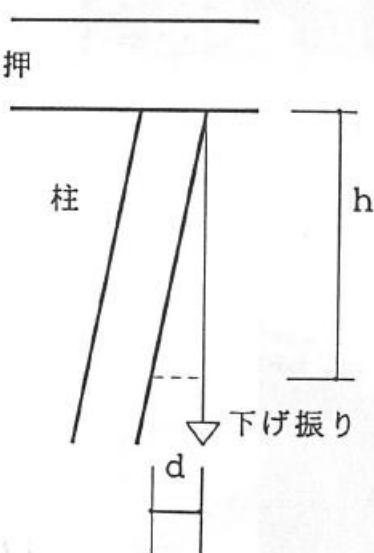
- (1) 下げ振りによる測定結果はRCの判定には用いませんので、判定調査表には記入しないでください。
(あくまで木造の傾斜測定の訓練という位置付け)
- (2) 各班それぞれの班名の傾斜板のみ測定し、下表を穴埋めしてください。
- (3) その結果に基づき判定したランクに○をつけてください。
- (4) 測定方法は下記「傾斜の測り方」(マニュアル抜粋)を参照してください。
※貸し出し用下げ振りは水系に1200mmでマーク済み(下側に黒マーク、上部に赤マーク)
- (5) ニードルは使用しないでください。

測定変形量		判定	ランク
() / 120	⇒	1 / ()	A ・ B ・ C

傾斜の測り方

建築物の1階での傾斜は以下のように計測して下さい。

長押



h (1200mmが便利) とdの寸法を測定し、d/hの値を計算する。

Aランク	Bランク	Cランク
$d/h \leq 1/60$	$1/60 < d/h \leq 1/20$	$d/h > 1/20$

h=1200mmの場合

Aランク	Bランク	Cランク
$d \leq 20\text{mm}$	$20\text{mm} < d \leq 60\text{mm}$	$d > 60\text{mm}$

(被災建築物応急危険度判定マニュアルより抜粋)

平成30年 目黒区防災訓練 応急危険度判定 チーム集計表

チーム提出書類
1.チーム集計表
2.住宅地図
3.判定調査表

住所	丁目 番周辺		チーム名	
所属 (都道府県)		調査者氏名		
	調査済み (緑)	要注意 (黄)	危険 (赤)	調査戸数
木造 (内:付属屋)	(戸) ()	(戸) ()	(戸) ()	(戸) ()
鉄骨造 (内:付属屋)	(戸) ()	(戸) ()	(戸) ()	(戸) ()
RC造 (内:付属屋)	(戸) ()	(戸) ()	(戸) ()	(戸) ()
その他 (内:付属屋)	(戸) ()	(戸) ()	(戸) ()	(戸) ()
計 (内:付属屋)	(戸) ()	(戸) ()	(戸) ()	(戸) ()

備考 (特記すべき事項を記入してください)

平成30年度 目黒区総合防災訓練 応急危険度判定 班長集計表 ____ 班 班長氏名 _____.

日にち	班	戸 ノ	住所 ○丁目△△番周辺	W			S			RC			その他			計
				調査済み (緑)	要注意 (黄)	危険 (赤)	調査済み (緑)	要注意 (黄)	危険 (赤)	調査済み (緑)	要注意 (黄)	危険 (赤)	調査済み (緑)	要注意 (黄)	危険 (赤)	
		1	丁目 番周辺													
		2	丁目 番周辺													
		3	丁目 番周辺													
		4	丁目 番周辺													
		5	丁目 番周辺													
		6	丁目 番周辺													
		7	丁目 番周辺													
		8	丁目 番周辺													
		9	丁目 番周辺													
		10	丁目 番周辺													
計																

備考 特記すべき事項等

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造建築物等の応急危険度判定調査表

RC

整理番号 東山1-24-31 調査日時 9月2日 午前・午後 10時 調査回数 回目
 調査者氏名 (都道府県/No) 0902 A-1 (省略可能 / 省略可能)
 (↑日付+チーム) (省略可能 / 省略可能)

整理番号 東山
1-24-31
 建築物番号 31
 住宅地図整理番号 12
3
1
 地上 4階
 地下 -階
 ア 35m
 イ 10m

建築物概要

- 1 建築物名称 東山マンション 1.1 建築物番号 31
 2 建築物所在地 (省略してよいです) 2.1 住宅地図整理番号 12
 3 建築物用途 1.戸建て専用住宅 2.長屋住宅 3.共同住宅 4.併用住宅 5.店舗 6.事務所
 7.旅館・ホテル 8.庁舎等公共施設 9.病院・診療所 10.保育所 11.工場
 12.倉庫 13.学校 14.体育館 15.劇場、遊戯場等 16.その他 ()
 4 構造種別 1.鉄筋コンクリート造 2.プレキャストコンクリート造 3.ブロック造
 4.鉄骨鉄筋コンクリート造 5.混構造 () と ()
 5 階数 地上 4階 地下 -階
 6 建築物規模 1階寸法 約 35 m × 10 m

調査方法 1
 1 レ

調査 調査方法: (1.外観調査のみ実施 2.内観調査も併せて実施)

1 一見して危険と判定される。(該当する場合は○を付け危険と判定し調査を終了し総合判定へ)

1. 建築物全体又は一部の崩壊・落階	2. 基礎の著しい破壊、上部構造との著しいずれ
3. 建築物全体又は一部の著しい傾斜	4. その他 ()

2 隣接建築物・周辺地盤等及び構造躯体に関する危険度

	Aランク	Bランク	Cランク
判定(1) ① 損傷度Ⅲ以上の損傷部材の有無	1. 無し	2. あり	
判定 ② 隣接建築物・周辺地盤の破壊による危険 ③ 地盤破壊による建築物全体の沈下 ④ 不同沈下による建築物全体の傾斜	1. 危険無し	2. 不明確	3. 危険あり
	1. 0.2m以下	2. 0.2m~1.0m	3. 1.0m超
	1. 1/60以下	2. 1/60~1/30	3. 1/30超
	柱の被害 [下記⑤⑥の調査階(被害最大の階) <u>1階</u>] (壁構造の場合は柱を壁の長さに読みかえる)		
(2) ⑤ 損傷度Ⅴの柱本数/調査柱本数 損傷度Ⅴの柱総数 <u>0</u> 本 調査柱 <u>15</u> 本 (調査率 <u>62.5%</u>) (<u>15/24</u>) (今回は調査柱 <u>16本(66.7%)</u> 又は <u>17本(70.8%)</u> でも構いません)	1. 1%以下	2. 1%~10%	3. 10%超
	⑥ 損傷度Ⅳの柱本数/調査柱本数 損傷度Ⅳの柱総数 <u>3</u> 本 調査柱 <u>15</u> 本 (調査率 <u>62.5%</u>)		
判定(2)	1. 調査済 全部Aランクの場合	2. 要注意 Bランクが1の場合	3. 危険 Cランクが1以上又はBランクが2以上
危険度の判定 判定(1)と判定(2)のうち大きな方の危険度で判定する	1. 調査済み (要内観調査)	2. 要注意	3. 危険

判定(1) 2
1
1
1
 柱の被害最大の階 1
1
 ※調査率は50%以上であることを確認できればよい。
2
 判定(2) 2
 判定 2

3 落下危険物・転倒危険物に関する危険度

	Aランク	Bランク	Cランク
① 窓枠・窓ガラス	1.ほとんど無被害	2.歪み、ひび割れ	3.落下の危険有り
② 外装材(モルタル・タイル・石貼り等)	1.ほとんど無被害	2.部分的なひび割れ、隙間	3.顕著なひび割れ、剥離
③ 外装材(ALC板・PC板・金属・ブロック等)	1.目地の亀裂程度	2.板に隙間が見られる	3.顕著な目地ずれ、板破壊
④ 看板・機器類	1.傾斜無し	2.わずかな傾斜	3.落下の危険有り
⑤ 屋外看板	1.傾斜無し	2.わずかな傾斜	3.明瞭な傾斜
⑥ その他 ()	1.安全	2.要注意	3.危険
危険度の判定	1.調査済み 全部Aランクの場合	2.要注意 Bランクが1以上ある場合	3.危険 Cランクが1以上ある場合

① 1
 ② 1
 ③ レ
 ④ レ
 ⑤ レ
 ⑥ レ
 判定 1

総合判定 (調査の1で危険と判定された場合は危険、それ以外は調査の2と3の大きい方の危険度で判定する。)

1. 調査済 (緑) 2 要注意 (黄) 3. 危険 (赤)

総合判定 2

コメント (構造躯体等が危険か、落下物等が危険かなどを記入する。)
構造躯体である1階の柱が損傷を受けており要注意です。

RC造